

雑感

第1回

土岐市長 大野 信彦

対話



出会い・ふれあい

市長就任以降、約1カ月が過ぎ、ようやく落ち着きを取り戻すと同時に、あらためてその責任の重大さを実感しております。

初登庁の日に、多くの職員の出迎えを受け、約1年ぶりに市庁舎に入り、「いよいよ始まる！」と思うと妙に緊張し、市職員に採用され初出勤した事を、まるで昨日の事のように思い出しました。

こうした経験の中で、得たものは少なくないと思っております。

これからも、市民の皆さんとの出会い、ふれあい、対話を大切にし、そのご意見などを市政に反映してまいりたいと考えております。

地方分権の流れの中で、少子高齢化が急速に進展し、地方の行財政を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあります。が、選挙戦においてお約束をさせていただきました「地域の活性化」と「行財政改革」をしつかり進め、活力ある明日の土岐市を目指し、全力を挙げて取り組む所存でございます。

今後とも、皆さま方の一層のご支援をお願い申し上げます。

～知ってください 考えてください～ 土岐市の財政のこと

このコーナーでは、財政の仕組みや本市の実情についてお知らせします。

総務課財政係 内線226・227

第1回 予算のこと

予算とは、1年間(4月から翌年3月まで)にどれくらいの収入があるのか、そして、その収入を使ってどのような行政サービスを行うのかを計画し、その費用を見積もることです。予算は市議会に提案し、議決によって成立します。通常、3月に開催される議会に新年度予算案を提出します。ここで議決された予算を当初予算、年度の途中に変更された予算を補正予算と呼んでいます。

土岐市の予算には、行政サービスの基本的な経費が計上される一般会計と、特定の事業を行う場合に一般会計と切り離して経理を行う特別会計が11会計(国民健康保険特別会計・介護保険特別会計など)、使用料などのその事業における収入で経費を賄う独立採算を原則とする公営企業会計が2会計(病院事業会計・水道事業会計)

あります。

土岐市の平成19年度当初予算額は、一般会計178億4,400万円、特別会計190億6,362万円、企業会計106億684万円、総額で475億1,446万円となりました。

当初予算額の推移を見ますと、特別会計は年々増加していますが、一般会計と公営企業会計は減少しており、総額も減少しています(下表参照)。特別会計の増加は、国民健康保険特別会計や介護保険特別会計などが増加傾向にあるため、医療費の増大や高齢化の進展が背景にあります。一般会計の減少は、収入(市税など)の減少に伴って年々経費を切り詰めているからです。

当初予算額の推移

(単位:万円)

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
一般会計	2,132,800	2,124,000	1,920,000	1,803,700	1,784,400
特別会計	1,729,472	1,761,563	1,848,550	1,903,335	1,906,362
公営企業会計	1,197,054	1,108,548	1,068,822	1,078,506	1,060,684
合計	5,059,326	4,994,111	4,837,372	4,785,541	4,751,446